

## 「毛筆」

先日、教育委員会の方にお会いした。毎月のように会っている方なのだが、突然「先生、左利きだったんですね」と言われた。最近ではペンを持つ機会が少ないためか、それでも何度かは見ている前で字を書いたことがあるが、右利きだという先入観があったのか、このときまで気が付かなかったようだ。以前にも書いたが、私は左利きである。ノートに文字を書くのも、ボールを投げるのも、はさみを持つのも、そして、包丁を使うのも左手だ。

右利きの皆さんには分からないだろうが、左利きだと苦労することがある。ちょっとひがみっぽく言うと、世の中、右利き用にできている。その代表が、文字である。文字は基本、横棒の時は左から右に移動する。右利きだと「引く」形になるのだが、左利きだと「押す」形になる。硬筆ならまだいいが、毛筆だと、筆先が割れてしまい、上手に書くことが困難である。手首を曲げたり、肘をくねらせたりして何とか書くが、かなり難しい。だから、左利きの私でも、筆は右手で持つ。日頃から右手を使って文字を書く人は、右手のコントロールができるが、そうでない左利きの人は筆をコントロールすることが難しい。実は、教員になる直前、私は半月ばかり、書道塾に通ったことがある。毛筆を上手になりたかったのではなく、右手で字を書く練習がしたかった。おかげで、授業中、生徒の前で黒板に字を書くときは、原則、右手で書ける。疲れるとチョークを左手に持ちかえることもあるが。

さて、冬休み明けの10日、学校では書初めを行った。本校の恒例行事だ。机を廊下に出し、床に書初め用紙を置いて書く。与えられた紙は5枚。静まり返った教室の中、誰も真剣に一字一字丁寧に書いていた。多くの生徒は日頃、毛筆を持つことはほとんどないから苦戦している。手本をじっと見たり、何度も筆先をそろえたり。それでも、そんな経験は大切にしたい。終了後、学年ごとに何点か選ばれて、学年の廊下に掲示された。選ばれた作品は、手本のように跳ね、止めがきちんとしていて、文字に躍動感があった。

1月13日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 2、3、4、5の数字が書かれたカードが1枚ずつあります。この4枚のカードから3枚をとって、3桁の数字をつくる時、その数字が8の倍数になるのは何通りありますか。